ます。 弾に斃れてから二カ月近くが経ち い出されます。 安倍晋三元首相が七月八日に 改めて安倍さんのことが思 極めて残念、 痛恨 X

る増上 七月十二日の東京・ 一寺での葬儀で、昭恵さんの 芝公園 13 あ

の極みです。

喪主としての挨拶を聞いて、 人は世間からいろいろと言われた 夫婦だったなと思い まし お二

さんあったと思うが、

本人なりの

日までの二日間に書き上げた、

同

留魂録は、

松陰が処刑さ

治家としてやり残したことはたく

春夏秋冬を過ごして、最後、

昭恵さんは幕末の志士、

吉田

松

それが芽吹くことでし 種をいっぱいまいている

> ら 引 志に

た昭恵さんは、

安倍さんの本 その書物

同志だったのだと思いました

あ

てた遺書です。

迎えた。

り、二十歳に 十歳には十 0) 五十歳には五十歳の春夏秋冬二十歳には十歳の春夏秋をがあ 『留魂録』 の 一 の春夏秋冬が 節を引いて、

夏秋冬があったと思う。相目前に倒れたが、六十 があります。父、 晋太郎さんは首 思う。主人も政、六十七歳の春

う」と話しました。

でいたので、すぐにピンときまし ったのだろうということを書 追悼文でも、 た。安倍さんは父の晋太郎さん ました。 私は学生時代から留魂録を読 父にも春夏秋冬が あ

れる前 全力で目指した新しい「日本の朝」



「正論」令和4年10月号

それも正しいと思います 戦友」とも言 安倍さん 9 ていましたが のことを

という話もあると聞きた、: 間ぐらい討論して、先生が負けた の高校時代も歴史の先生と一時 でのい対論して、先生が負けた

たのです。戦後レジームから脱却書いた時、安倍さんは晋太郎さんが亡くなるわけですが、春夏秋冬のことをるわけですが、春夏秋冬のことをという話もあると聞きました。 と日本 の新がれば 新しい未来は拓けない、 、戦後レジームから脱却 、安倍さんは覚悟を決め

皆さん 党清和 会に来られました。 いう中身の挨拶をされた。 昭恵さんは七月二十 政策研究会(安倍派)の総さんは七月二十一日の自民 方に主人の後を託しますと 日本を誇れる そこで派閥の 最後に

> くくりました。派閥の皆さんに託す。宜しくお願いします」と締めくださるのは派閥のみなさまでた」「この主人の思いを実現して よう。 た」「この主人の思いを実現して輝く国にしたいと言っていまし したいと言っていました。世界に子供たちが生まれてよかった国にしたいと言っていました。さらに すというのは安倍さんの思い で

伊藤博文と山県有朋

た。これは、二年前、安音女で、かた」と安倍さんは話していましかをうらやましいと言って伊藤博文をうらやましいと言ってのよりでいましたが、「山県有朋は 本」のメンバーで、山県の旧邸生んだ議員グループ、創生「生んだ議員グループ、創生「水安倍政権た。これは、二年前、安倍政権いた」と安倍さんは話していま った時の話です。だった東京・目白の椿山荘 た時の話です。 13 邸宅 集ま 公権を

で生き残った伊藤は「死中で生き残った伊藤は「死中で生き残った伊藤は「死中で生き残った伊藤は「死中で生き残った伊藤は「死 ることはできなかった。門下生のに斃れたりして、明治維新を迎え らも、 動の中で重要な役割を果たしながも久坂玄瑞や吉田稔麿らは統幕運松陰が開いた松下村塾の門下生で 道半ば で処刑されたり戦 一松陰を 「死ぬとき 」と言 上で死 はじ 生で 場 2

伊藤がそう話していたということを、私は朝鮮李王朝の李家の養をを、私は朝鮮李王朝の李家の養とを、私は朝鮮李王朝の李家の養とを、私は朝鮮李王朝の李家の養とを、私は朝鮮本王朝の李家の養とを、私は朝鮮本王朝の本家の養 伊藤が死 (1) (D る私は、安倍さんが話しているないという話のどちらも知って て驚い ぬときは畳の たもの 上 で死 E

う思い いた。一刻も早く戦後レジームをあってもいいように覚悟を決めて 打破して、新しい国をつくるといいた。一刻も早く戦後レジームを 伊藤博文の話をすることから 政治に対して、どんなことが 安倍さんは常に本気で、 き抜こうと思ってやってき からだったのです。

行動する集団

前に切り替えなければということ会じゃだめだ、行動する集団の名会じゃだめだ、行動する集団の名の落選、続く死去に伴い、研究究会」を立ち上げました。中川さ初のメンノーテー具 初のメンバーで「真・保守政策研初のメンバーで「真・保守政策研別起夫、安倍晋三、そして私が最題を、〈新しい「日本の朝」〉と決題を、〈新しい「日本の朝」〉と決 創生「日本」が平成二十四(二〇その思いを持った安倍さんが、

び、文字の並びを変えたのら安倍さんが「日本創生 」になりまし 文字の並びを変えたのです。 た。 三つの ごを選が候補か

最初のページを紹介します。安倍さんの思いが詰まっているの勉強会を経てまとめた政策でった平成二十二年二月から二年いていますが、創生「日本」に 勉強会を経てまとめた政策で、 た平成二十二年二月から二年間 ていますが、創生「日本」にな 政策集はA4版八~。 簡潔に書 る。

本の朝」 強い 日本で、

11

素晴らしき国民性を有する国。し ★まず隣国・中国の軍事的台頭 による日本周辺の軍事的・外交的 環境の激変。米国は依然として最 環境の激変。米国は依然として最 強のスーパーパワーであることは 事実としても、今や力の相対化は ◆日本は宏遠なる歴史と伝統、

> 増大している。
>
> 増大している。
>
> アシアの平和と安定
>
> のために日本の果たすべき役割は
> のために日本の果たすべき役割は 増のの

れている。確な意志を確立することを求めら確な意志を確立することを求められている。 実を乗りこえるべく、日本は今こして存続し得ない。そのような現だけでなく、「誇りある国家」と ば、 そ現行の憲法を基盤とする体制 が何らの対応もなし得 ◆しかし、この現実を前に、 日本は独立の国家たり得な なけ ら明を いれ日

、9・11テュ、以降、アジア通貨危機、以降、アジア通貨危機、 の間、日本経済ドーミュ次ぐ困難によるものとはいえ、これに直面してきた。そのような相様に直面してきた。そのような相 きの 最大 東日本大震災という一9・11テロ、リーマン の原因は明らかに長引てきたのは事実である 日本経済はバブル崩 マンショ Ι Τ ッ不壊 117 全力で目指した新しい「日本の朝」

seiron10_衛藤晟一さん_初校.indd 116-117

116

小められる。 力強い成長 了強い成長によるHいデフレ脱却への『 レであり 財 政治には 政治) 再 進 一 日

◆そのために、われわれに必要 ・されるのは、まず「戦後レジー とされるのは、まず「戦後レジー が、古く厚い壁」を打ち破る力と が、おれわれが再び がしい「日本の朝」を迎えていく ために求められるものであり、わ ために求められるものであり、わ ために求められるものであり、わ ために求められるものであり、わ

と信頼を再び甦らせた。われわれ力」を再認識させ、日本への自信にも忘却されていた「日本の底にも忘却されていた「日本の底 と信頼を再び甦らせた。 力」を再認識させ、にも忘却されていた 「力」を再び掘 日本への自 り起こし、

> では戦後 本法改正 輝く国にした。 再生をやった。TPP して日本全体の 終わらせた。 貿易体制を守り、 略的経済連携協定) を成立させ、 件の再生はない.日本経済の再は 年談話で謝罪 日本を世界で上り(環太平洋生はないと経済 、第二次政権の政権で教育基 外交を 生なく

盟関係を強化した。そして日米豪る安全保障法制を制定し、日米同も集団的自衛権の行使を可能とす特定秘密保護法や限定的ながら 印へのフレームの拡大強ル盟関係を強化した。そして日を安全保障法制を制定し、日 (FOIP)を打ち出した。 「自由で開かれたインド太平洋」。即へのフレームの拡大強化で、

って行って、「経済界対策を打たこの原案を安倍さんのところに持した。今だから言いますが、私は三年の秋ぐらいから準備していま 民党総裁選に立候補する前 実は政策案は平成二十四年 年の自

かったしね

.晃さんには強固な運動

員

自 分でやると言った。 さんは「それは自分でやる」とければいけない」と言うと、安 経済界対策もメディア対策 つです。 選挙に勝 つた め 118

石破茂、石原伸晃、町村信孝、林石破茂、石原伸晃、町村信孝、林方正とみな派閥の代表でした。そを持っていたのは派閥横断の若手を持っていたのは派閥横断の若手を持っていたのは派閥横断の若手が集まった創生「日本」の支持を ががい が、私は石破―石原ラインからやいたから 一番有利だと思われた石破は総裁選に向けて準備して 、私は石破―石原ライン この時の総裁選に出 石原伸晃、町村気の総裁選に出馬り したの た。 い石

もらっ 安倍両氏を講師に招いて話をして安全保障と憲法について石破、 たことがあります。 石破さ

石破さんは安全保障では兵器の話では詳しいけど、本当に安全保障にの時の会合に先立って、明らかになったんです。 言っていた 言っていたら、 できるわけがな 。そんな をやらない いということですよ。ら、いつまでも憲法改かない。そればかりを 正の話 なの ばか ŋ も憲法改 たくても ŋ いかりを をやる フェ

思い、二、三位連合の話は蹴りれは安倍が確実に二位にいけるとやっぱりおかしいから、あ、とでしょう。石破さんの話を聞 て安倍さんが三位になるってこちかけられました。でも、それ 安倍連合 」を作ろうという話が いけると 気に決 を聞く りま

をしてもらうわ てもらうわけです。そこで安倍さんに一 候補を表明す

国のためにすべてを捧げる時国のためにすべてを捧げる時にない時に立ち上がらなければて本当に立ち上がらなければて本当に立ち上がらなければらない時に立ちあがらないのだら、今まで何をしてきたのから、今まで何をしてきたいかった。 もう ないじゃないか」と言いまし、今まで何をしてきたのかわかい時に立ち上がらないのだった本当に立ち上がらないのだった本当に立ち上がらないなんて政治家として許がらないなんでのだめにすべてを捧げる時が来のためにすべてを捧げる時が来のためにすべてを捧げる時が来のためにすべてを捧げる時が来のためにすべてを捧げる時が来のためにすべてを捧げる時が来のためにすべてを捧げる時が来のためにすべてを捧げる時が来 一 カ るないん

る、つぶれる、という意見もいって、負けたらもう一生ダメになもあった。ここで安倍さんが出ました。「まだ早い」という意見ました。「まだ早い」という意見ました。「まだ早い」という意見 ぱる、 出ました。 真剣に議論しま

でどうなるかわからない。誰かがにもかかわらず、経済も落ち込ん

b わ いけです。 Š そこで、 決断する時ですよ」となっそこで、安倍さんに「さあ れ を変えなけれ いけ

味で日本の救世主だと思います、この時、安倍さんが決めていたと思います。菅義偉さんは「とにかく出るだけ出ないと後は「とにかく出るだけ出ないと後は「とにかく出るだけ出ないと後なかった。安倍さんはそういう言味で日本の救世主だと思います。 ね味

振 h 出しは社労族

成二年で初当選するのですが した。

私は昭和六十一

晋太郎外相の秘書をし で安倍派から初めて立候補し、 私が安倍さんと出 つ た晋 一年のたった。 3 は 衆院 0 す は で に派平選で

119 全力で目指した新しい「日本の朝」

seiron10_衛藤晟一さん_初校.indd 118-119

NO 悼文を書いた。それを読 0) 私たちを当選させてくれ ですが、その時に晋三さんが追三年の五月十五日に亡くなった ました。自分の命を削 ターを使って選挙応援 っとしたらこの人は単なる良家 が悪かっ 見込みがあると感じました。 んぼ んではないのかもと思 それでも をやってもヘリ h ました。 0 で、 てまで ひ てゴ

宗教団体 できるのですが、私は公明党の支てきた。六年六月に自社さ政権が平成五年に安倍さんが国会に出 民党も自社さ政権になると、 「憲法20条を考える会」の裏の事 持母体である創価学会に批判的な に就いてもらった。ところが さんを引っぱりこんで事務局次長 務局長をやったこともあ てきた社会党と連立だ。 反創価学会の議 や文化人による 員集団 一四月 安倍

> 安倍さんには、「お父さんが外を社会副部会長に引っ張りました。 伸晃は有名だけ です。そして、この 部長にはみんなび 2 たの ります。 この っくり返 は私と石 。当選二期で部会長にな、私は党の社会部会長に っち بخ 原伸晃だけ。 0っくりするわけ 衛藤晟一社会 石原

般会計で社会保障費が二分の一をいたほうがいい。もうすぐ国の一これからは社会保障をわかっておこれらはわかるかもしれないが、 んです。 総理大臣になれないよ」と言った保障のことがわからなかったから超えて占めるようになるよ。社会 なかったでしょうね。 いたから、 社会保障に詳 総理になった時も困ら しくなっ が外

初当選の後から、 で日本政策研究センター **研究センターの** 安倍さんは私

> **勉強してい** そこで安倍さんは尖鋭 いた勉強会に参加して伊藤哲夫さんのところ ような議論を展開することを意 実は全体に耐えら たかのように思わ 的なことを なこれれ れるて 識 7

> > 120

した勉強をしていたのです。
は大力条についても、本音では
にすの「陸海空軍その他の戦力は
にする」を削除したい。だが、今の状
にでは憲法九条一項と二項に手を
触れることは不可能で、これをや
ったらもう政治的に持たないだろ うと判断した。

ま うかけ で け加えるということだけならどそれなら二項に自衛隊の存在を がちゃんとできた方でした。 はできる、できないとの見極理想は高く掲げるけど、ここ となったわけです。 のことを言 つ ていることと 安倍さん

然変われ って いましたが、 ってい いることが違うと批 ません 子人の思いだうと批判 でした。 は する 全

0 会へ の呼びか

(参院議員)に会いました。安倍さんを担ぎたいとなったとが属年九月の自民党総裁選でが裁に返り咲く前のことです。前回の総選挙があってから二年半以上が経っていたのでいつ総選挙が上が経ってもおかしくない。維新の連 場伸幸氏 会の代表だった橋下徹氏をはじで、大阪市内で当時、大阪維新の けたいことがあります。 たいことがあります。 平成二十最後に、 日本維新の会に呼びか 田 年二月に安倍さんと私、 けです。 **≶院議員)に会いました。安倍伸幸氏(衆院議員)、浅田均氏、松井一郎氏(大阪市長)、馬** 大阪市内で当時、 宏さん(参院議員) 確かに自民党単独 の三人 そして で

> まなく ては 11 け な いことも あ ŋ

えてはいなかった。維新から担がれるということはので、安倍さんが自民党を離労 取 ij まとめの作業に入って頃には総裁選に向けて うことは考 覚し いた策

置づけて、新しい大阪をつくろうに「維新」を入れたのでしょう。に「維新」を入れたのでしょう。みを打ち破り、新しい時代を作ろ とした。 中身を忘れたのかと言いたいで目指していますが、あの時話した彼らはいま、日本全体の維新を 維新は当時、 大変な功績だった。 これまでのしがら

目指そうとい あの んと話したのは、 安倍さんと維新 日本の新しい夜明け いうことでし もっと大きな夢 のみなさ を

す。

す が、 新に限らず、 安倍さんの遺志を継ごうと 自民党でもそうで

初当選。 自民党を除名され、 再生や少子化対策等国政の重要事項担当の 行政に明るく、 院選で当選。衆院厚生労働委員長など厚労 議、大分県議を経て、 生まれ。大分大学経済学部卒業。 えとう・せいいち 九年に復党が認められ、 十七年、 第二次安倍晋三政権で教育 郵政民営化法案に反対し 無所属で出馬して落 平成二年の衆院選で 昭和二十二年大分市 大分市

121 全力で目指した新しい「日本の朝」